



D コマンド

この章では、D で始まる Cisco Nexus 1010 コマンドについて説明します。

deadtime

到達不可能な RADIUS または TACACS+ サーバをスキップする間隔を設定するには、**deadtime** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

deadtime *minutes*

no deadtime *minutes*

シンタックスの説明

minutes 分単位の間隔です。0 ~ 1440 の値を指定できます。

デフォルト

0 分

コマンドモード

RADIUS サーバグループ コンフィギュレーション (config-radius)
TACACS+ サーバグループ コンフィギュレーション (config-tacacs+)
グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

設定する前に、**tacacs+ enable** コマンドを使用して TACACS+ をイネーブルにする必要があります。デッドタイムは、グローバルに設定してすべての RADIUS または TACACS+ サーバに適用することも、サーバグループごとに適用することもできます。

RADIUS または TACACS+ サーバ グループに対するデッドタイム間隔がゼロ (0) より大きい場合は、その値がグローバルなデッドタイム値より優先されます。

デッドタイムの間隔の設定をゼロ (0) にすると、タイマーがディセーブルになります。

デッドタイムの間隔が 0 分の場合、RADIUS および TACACS+ サーバは応答しなくても、「応答なし」とマークされません。

例

次に、RADIUS サーバ グループのデッドタイム間隔を 2 分に設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# aaa group server radius RadServer
switch(config-radius)# deadtime 2
```

次に、すべての TACACS+ サーバおよびサーバグループのデッドタイムの間隔を 5 分に設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# tacacs-server deadtime 5
switch(config)#
```

次に、TACACS+ サーバグループのデッドタイムの間隔を 5 分に設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# aaa group server tacacs+ TacServer
switch(config-tacacs+)# deadtime 5
```

次に、デッドタイムの間隔をデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# feature tacacs+
switch(config)# aaa group server tacacs+ TacServer
switch(config-tacacs+)# no deadtime 5
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaa group server	AAA サーバグループを設定します。
radius-server host	RADIUS サーバを設定します。
show radius-server groups	RADIUS サーバグループ情報を表示します。
show tacacs-server	TACACS+ サーバの設定を表示します。
tacacs+ enable	TACACS+ をイネーブルにします。
tacacs-server host	TACACS+ サーバを設定します。

debug logfile

指定のファイルに **debug** コマンドの結果を出力するには、**debug logfile** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug logfile filename [size bytes]

no debug logfile filename [size bytes]

シンタックスの説明	
<i>filename</i>	debug コマンドの出力ファイルの名前を指定します。ファイル名は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
<i>size bytes</i>	(任意) ログファイルのサイズをバイト単位で指定します。指定できる範囲は 4096 ~ 4194304 です。

デフォルト	
	デフォルトのファイル名 : syslogd_debugs
	デフォルトのファイル サイズ : 4194304 バイト

コマンド モード	
	任意のコマンド モード

サポートされるユーザの役割	
	network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	
	ログファイルは、log: ファイル システム ルート ディレクトリに作成されます。
	ログファイルを表示するには、 dir log: コマンドを使用します。

例	
	次に、デバッグ ログファイルを指定する例を示します。
	<pre>switch# debug logfile debug_log</pre>
	次に、デフォルトのデバッグ ログファイルに戻す例を示します。
	<pre>switch# no debug logfile debug_log</pre>

関連コマンド	コマンド	説明
	dir	ディレクトリの内容を表示します。
	debug logging	debug コマンド出力ロギングをイネーブルにします。

debug logging

debug コマンド出力ロギングをイネーブルにするには、**debug logging** コマンドを使用します。デバッグのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug logging

no debug logging

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、**debug** コマンドの出力のロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# debug logging
```

次に、**debug** コマンドの出力のロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# no debug logging
```

関連コマンド	コマンド	説明
	debug logfile	debug コマンド出力のログファイルを設定します。

default shutdown (インターフェイス)

インターフェイス レベルでの管理ステータスの上書きを削除するには、**default shutdown** コマンドを使用します。

default shutdown

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **default shutdown** コマンドでは、以前に入力された管理ステータスのすべての設定が削除されます。これにより、ポートプロファイルの設定が有効になります。

例 次に、ポートをシャットダウン状態に変更する例を示します。

```
switch# config t
n1000v(config)# interface ethernet 3/2
n1000v(config-if)# default shutdown
n1000v(config-if)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show running-config interface	インターフェイスの設定を表示します。

delay

イーサネット インターフェイスにスループット遅延値情報を割り当てるには、**delay** コマンドを使用します。遅延値を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

delay *value*

no delay [*value*]

シンタックスの説明	<i>value</i>
	スループット遅延時間を 10 マイクロ秒単位で指定します。 指定できる範囲は 1 ~ 16777215 です。

デフォルト	なし
-------	----

コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)
----------	----------------------------------

サポートされるユーザの役割	network-admin
---------------	---------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	この値を設定しても、実際のイーサネット インターフェイスのスループット遅延時間は変化しません。この設定は情報提供だけを目的としています。
------------	--

例	次に、スロット 3 のポート 1 にあるイーサネット インターフェイスに遅延時間を割り当てる例を示します。
---	---

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 3/1
switch(config-if)# delay 10000
switch(config-if)#
```

次に、遅延時間の設定を削除する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface ethernet 3/1
switch(config-if)# no delay 10000
switch(config-if)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show interface	インターフェイスの設定情報を表示します。

delete

ファイルを削除するには、**delete** コマンドを使用します。

```
delete [filesystem:[//directory/] | directory/]filename
```

シンタックスの説明		
<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効な値は、 bootflash または volatile です。	
<i>//directory/</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。	
<i>filename</i>	ファイルの名前を指定します。大文字と小文字が区別されます。	

デフォルト なし

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 削除するファイルを見つけるには、**dir** コマンドを使用します。

例 次に、ファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete bootflash:old_config.cfg
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dir	ディレクトリの内容を表示します。

description (インターフェイス)

インターフェイスの説明を追加して、実行コンフィギュレーションに保存するには、**description** コマンドを使用します。インターフェイスの説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *text*

no description

シンタックスの説明	<i>text</i>	インターフェイスについての説明です。最大文字数は 80 文字です。
-----------	-------------	-----------------------------------

デフォルト	なし
-------	----

コマンドモード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)
---------	----------------------------------

サポートされるユーザの役割	network-admin
---------------	---------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、インターフェイスの説明を追加して実行コンフィギュレーションに保存する例を示します。

```
switch(config-if)# description Ethernet port 3 on module 1
```

次に、インターフェイスの説明を削除する例を示します。

```
switch(config-if)# no description Ethernet port 3 on module 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	interface vlan	インターフェイスと VLAN ID を仮想サービスに割り当てます。
	interface loopback	ループバック インターフェイスを作成して設定します。
	interface mgmt	管理インターフェイスを設定します。
	show interface	インターフェイスの説明を含むステータスを表示します。

description

仮想サービスに説明を追加するには、**description** コマンドを使用します。

description *string*

シンタックスの説明

string 仮想サービスを指定します。最大文字数は 80 文字です。

デフォルト

なし

コマンド モード

仮想サービス ブレード コンフィギュレーション (config-vs-b-config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

description コマンドで変更する仮想サービスを、**virtual-service-blade** コマンドで決定します。

例

次に、仮想サービスの説明を追加して実行コンフィギュレーションに保存する例を示します。

```
switch# conf t
switch(config)# virtual-service-blade VSM-1
switch(config-vs-b-config)# description vsm hamilton storage
```

次に、仮想サービスの説明を削除する例を示します。

```
switch(config-if)# no description
```

関連コマンド

コマンド	説明
virtual-service-blade	指定した仮想サービスを作成して、そのサービスのコンフィギュレーション モードに切り替えます。
show virtual-service-blade	仮想サービス ブレードに関する情報を表示します。
show virtual-service-blade-type summary	すべての仮想サービスの設定の要約をタイプ名ごとに表示します。
virtual-service-blade-type	この仮想サービスに追加するソフトウェア イメージ ファイルのタイプと名前を指定します。

dir

ディレクトリまたはファイルの内容を表示するには、**dir** コマンドを使用します。

dir [bootflash: | debug: | log: | volatile:]

シンタックスの説明	
bootflash:	(任意) ディレクトリまたはファイル名を指定します。
debug:	(任意) 拡張フラッシュのディレクトリまたはファイル名を指定します。
log:	(任意) ログ フラッシュのディレクトリまたはファイル名を指定します。
volatile:	(任意) 揮発性フラッシュのディレクトリまたはファイル名を指定します。

デフォルト なし

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザの役割 network-admin
network-operator

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 現在の作業ディレクトリを識別するには、**pwd** コマンドを使用します。
現在の作業ディレクトリを変更するには、**cd** コマンドを使用します。

例 次に、bootflash: ディレクトリの内容を表示する例を示します。
switch# **dir bootflash:**

関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
	pwd	現在の作業ディレクトリを表示します。

domain id

ドメイン ID を割り当てるには、**domain id** コマンドを使用します。ドメイン ID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

domain id *number*

no domain id

シンタックスの説明	<i>number</i>	ドメイン ID 番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 4095 です。
------------------	---------------	--

デフォルト	なし
--------------	----

コマンド モード	ドメイン コンフィギュレーション (config-svs-domain)
-----------------	--------------------------------------

サポートされるユーザの役割	network-admin
----------------------	---------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	Cisco Nexus 1000V をインストールする際、セットアップユーティリティでは、ドメイン ID、コントロール VLAN、パケット VLAN など、ドメインの設定が求められます。
-------------------	---

例	次に、ドメイン ID を割り当てる例を示します。
----------	--------------------------

```
switch# config t
switch(config)# sve-domain
switch(config-svs-domain)# domain id number 32
switch(config-svs-domain)#
```

次に、ドメイン ID を削除する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# sve-domain
switch(config-svs-domain)# no domain id number 32
switch(config-svs-domain)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show svcs domain	ドメイン コンフィギュレーションを表示します。

duplex

インターフェイスを全二重モード、半二重モード、または自動ネゴシエートモードに設定するには、**duplex** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

duplex {full | half | auto}

no duplex [full | half | auto]

シンタックスの説明

full	インターフェイスを全二重モードに指定します。
half	インターフェイスを半二重モードに指定します。
auto	インターフェイスのデュプレックスモードを接続先ポートが自動ネゴシエートするように設定します。

デフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドの **no** 形式を使用する場合、キーワード (full、half、auto) を省略できます。デフォルトのデュプレックス設定に戻すには、次のいずれかのコマンドを使用できます (たとえば、設定が full に変更されていた場合)。

```
n1000v(config-if)# no duplex
n1000v(config-if)# no duplex full
```

例

次に、スロット 3 にあるモジュールのイーサネット ポート 1 を全二重モードに設定する例を示します。

```
n1000v config t
n1000v(config)# interface ethernet 2/1
n1000v(config-if)# duplex full
```

次に、スロット 3 にあるモジュールのイーサネット ポート 1 をデフォルトのデュプレックス設定に戻す例を示します。

```
n1000v config t
n1000v(config)# interface ethernet 2/1
n1000v(config-if)# no duplex
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface	設定するインターフェイスを指定します。
speed	ポートチャネル インターフェイスの速度を設定します。
show interface	インターフェイス ステータスを表示します。速度およびデュプレックスモード パラメータもあわせて表示します。

